

病防第182号
令和3年2月8日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

令和2年度病害虫発生予察特殊報 第5号

令和3年2月8日
岐 阜 県

1 病害虫名 ハコベハナバエ *Delia echinata* (Séguy)

2 作物名 ホウレンソウ

3 発生地域 岐阜市

4 発生状況

令和2年11月中旬、岐阜市の露地栽培ホウレンソウにおいて、ハエ類の幼虫が葉に食入する被害が見られた。寄生していた幼虫を採集し、成虫まで室内で飼育した後、農林水産省名古屋植物防疫所に同定を依頼した。その結果、ハコベハナバエであることが確認された。

本種の発生による特殊報は、神奈川県、東京都、奈良県、埼玉県、群馬県、山口県、千葉県及び京都府の8都府県で発表されている。

5 形態および生態

成虫は、体長6～7mmで胸・腹部は灰黄色粉で覆われた黒色(図1)、幼虫は淡黄緑色で老熟期には体長6mm程度となる。蛹は体長5mm程度で、赤褐色の俵状である(図2)。

老熟幼虫は加害部から脱出して土中で蛹化し、約2週間で羽化して成虫となる。年3世代以上を繰り返すと考えられる。

6 被害

葉の先端の裏側に点々と産卵し、ふ化幼虫は、葉肉部に食入して潜孔を形成する。潜孔痕は、ふ化直後は細い線状だが、その後幼虫が発育するにしたがって広く葉肉を食害し、袋状となる(図3)。さらに葉柄に食入したり、近くの葉へ移動して食害を続ける。被害を受けた葉は、潜孔部から萎ちょう・黄化する。

7 防除対策

- (1) 現在のところ本虫に対する登録薬剤はないので、耕種的・物理的防除に努める。
- (2) 早期発見に努め、幼虫が生存する被害葉をほ場外へ持出し適切に処分する。
- (3) ほ場周辺のハコベ、オランダミミナグサ等の寄生植物となる雑草を除去する。



図1 ハコベハナバエ成虫



図2 ハコベハナバエの蛹



図3 ハコベハナバエの被害葉